

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501761		
法人名	朝日ベストライフ株式会社		
事業所名	グループホームあさひの家		
所在地	札幌市白石区北郷1条3丁目1-54		
自己評価作成日	令和8年1月15日	評価結果市町村受理日	令和8年2月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action.kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=0170501761-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和8年2月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が安全に穏やかに生活ができるように、常にご本人のペースに合わせながら慌てず、職員も気持ちにゆとりを持ちつつ接し、心身共にチームケアを意識しながら生活をサポートします。看取りの入居者様には、臥床離床に関わりなく福祉用具やクッションなどを使用して身体の痛みを少しでも緩和できるように対応し、些細な症状や状況変化も職員間で情報共有して、ご本人やご家族さまが安心できる生活が送れるよう支援します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームあさひの家」は、バス停やJR白石駅から徒歩圏内にある3ユニットの事業所である。近くにコンビニエンスストアや公園等があり散歩が楽しめる環境にある。敷地内の同法人施設と合同の夏祭りや災害時に協力の体制がある。3階建ての屋内は広々としており、ゆったりとした造りになっている。1階に共有の厨房があり、3階の談話室は多目的に使用ができ、地域に開放もできる体制になっている。当事業所は地域に根差した運営を行っており、令和6年に「あさひカフェ」を開設している。地域包括支援センター職員と情報交換を積極的に行い、中学生の職業体験時に認知症についての講義を受ける場所を提供している。管理者は、現状を引き継ぎながら、地域で利用者が安心して暮らす環境づくりを職員と一緒に熱心に進めている。職員の資質向上に向けて研修計画をもとに学ぶ機会が多く、職員は長年の看取り経験を活かし、質の高いケア提供につなげている。利用者は町内会のさくら祭りや夏祭りに参加し、法人施設合同の夏まつりにはボランティアの催しを楽しんで住民と交流している。5つの中学校から職業体験を受け入れ、中学生との交流機会も設けている。職員は調理レクで、どら焼きやおはぎ、ピザ作りを利用者と一緒に行い、寄り添うケアを大切に対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その地域に根差した施設作りをモットーに近隣の方や町内会との付き合いを大事にしている。	運営理念に地域社会とのつながりを大切にする文言があり、事業所の要所に掲示するとともにパンフレットにも載せて周知している。会議等で理念を確認し、職員は掲示してある理念を見て内容を意識している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会と定期的に話す機会を持ち、行事に参加している。中学生が職業体験で訪れる機会をつくっている。認知症カフェに利用者に参加して頂き、地域の方と交流する場を設けている。	町内会のさくら祭りや夏祭りに利用者も参加している。法人施設合同の夏祭りには、町内会役員の参加があり、ボランティアによるダンスなどを楽しみ、地域住民と交流している。中学生の職業体験を受け入れ、「あさひカフェ」等で交流する機会もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々から認知症の相談を受け、アドバイス、あるいは支援に繋げる体制を整えている。事務局主催の認知症カフェを定期的に開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	他機関、他職種、家族様に現在の取り組み状況について報告し、話し合い、意見などを頂いている。	定期的に会議を開催し、町内会長、地域包括支援センター職員の参加を得て、利用者の状態、災害対策、感染症等を報告し、参加者から地域情報や意見を得ている。家族の参加はなく、利用者の状態やヒヤリハット報告の議事録を送付している。	事前にテーマを記載した会議案内を家族に送り、参加が難しい場合は意見を引き出しながら会議に反映できるよう期待したい。また議事録送付時に簡単な資料も送り、家族との共有に期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市との係わりは担当課との連絡のほか、地域包括支援センター等と協力関係を築くように努めている。	月に毎月の状況報告を行い、担当者に困難事例を報告することもある。今回は認知症カフェについて確認し「あさひカフェ」を開設している。地域包括支援センター主催の「オレンジカフェ」との情報交換等、認知症に対する協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、定期的に委員会を開催して話し合いを行い、職員に周知している。定期的に事例をあげて内部研修を行っている。	基本的には役職者で委員会を開催し、拘束の有無を確認し拘束は行われておらず、全職員は内容を把握している。年2回の勉強会では事例をあげて身体の具体的な禁止行為を理解し、接遇も含めて言葉遣いや対応を学んでいる。今後、委員会と研修の書類を分けて見やすい整備を考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、定期的に委員会を開催して話し合いをもち、内部研修を行い、職員に周知して防止に努めている。		

グループホームあさひの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各種研修会に参加し、ホーム内での勉強会でフィードバックし理解を深めるように定期的を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書など、時間をとり、丁寧に説明している。利用料金、リスクとその管理体制、個人情報取り扱い、医療連携体制の実施などについて詳しく説明し、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議へ参加して外部の方々意見や思いを伝えられる機会を作っている。利用者のことばや態度から思いを察する努力を行い、不安・意見・苦情などについても職員で話し合い、対応している。	家族の面会時や電話連絡の際に意見を聞いている。意向を申し送りノートや日誌に記載して共有し、内容によって個別の連絡ノートも作成している。毎月、本人の写真と事業所のお知らせを送っているが、メッセージを添えたいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議や全体会議を毎月行ない、職員の意見を聞いたり、発言する場を設けている。	全体会議の中で、提案があれば業務の流れ等を改善し、ユニット会議では、主にケアについて話し合っている。リーダーが勤務表の希望を調整しているが、難しい内容は役職会議などで対応を検討している。年に1回管理者との個別面談がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も現場に来て、利用者や過ごしたり、個別職員の業務や思いを把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修には多くの職員が受講できるようにし、研修報告は全体会議などのミーティングで行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌市グループホーム合同事業体に参加し、定期的な管理者と職員の相互訪問を行い、お互いの学びや気づき、悩みの共有の場を作っている。		

グループホームあさひの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人に会い、話をする機会を設けてサービスが始められる様に努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの御家族の苦労やこれまでの経緯について聴くようにしている。話を聴くことで落ち着き、次の段階への相談に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な場合には可能な限り柔軟な対応を行っている。場合によっては、地域包括支援センターや他事業所のサービス、デイケアに繋げる対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人からも意見や要望を発信できる様な関係作りにつとめている。言葉の表現が難しい方とは、日々の対話の中で、表情や目線等の細かい感情や選択する質問での顔きなどを感じ取れるよう信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方の見えない気持ちも察しながら、良い関係を築くように努力している。面会時には本人の近況報告と共に、会話や対話の中での些細な質問や心配事などにも対応できるような関係づくりにも努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす家族・親戚宅や馴染みの知人・友人宅に行ったり、継続的な交流が出来るよう働きかけている。また、思い出の場所を車で巡ることも行っている。	家族以外の来訪は少なく、友人からの電話を取り次ぎ関係を支援している。娘と旅行したり、夫が住んでいる遠方まで会いに行った方もいる。家族と受診の帰りに外食を楽しんでいる。馴染みの「さくらこぶし公園」で散歩したり、車で巡ることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で楽しく過ごす時間や気の合うもの同士の過ごせる場面をつくる等、関係性がうまくいくように職員が調整役となって支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて経過をフォローし、関係性を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中での把握に努めている。言葉や表情、仕草などからも本意を汲み取り、職員間での情報交換を行っている。	会話や普段の関わりの中で意向を把握し、本人の趣味、嗜好等は「ライフヒストリー」に記載している。色を変えて追記しファイルに閉じているが、書式が整備されていない方も見受けられる。	入居後に情報を収集し、全員の「ライフヒストリー」の整備を期待したい。また現在の意向を具体的に引き出して介護サービス(1)に記載し、サービス支援内容につなげることが出来るよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活記録やご家族様、本人とのやり取りの中で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のコミュニケーションや観察により状況の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、医療機関等と意見交換しながら介護計画を作成している。職員間では、月1回のフロア会議を行い、日常のケアについて話し合い、安心して生活できるケアの見直しをしている。	利用者担当職員のモニタリング記録をもとに会議で評価し、短期目標を6か月、長期目標を1年ごとに見直し更新計画を作成している。更新時に家族の意向は同じ内容が続いているため、今後は具体的に引き出しその都度の意向を載せたいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態変化や職員の気付きは、個別のケア記録に記載し、職員間での情報共有に努めている。個別記録をもとに介護計画の見直し評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かして利用者にとって負担となる受診や入院の回避、訪問診療を受けながらの生活の継続など、ご本人・ご家族の状況や要望を軸に臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けていけるように、警察や民生委員、地区町内会長、区担当職員と意見を交換する機会を設けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望するかかりつけの医となっている。状態変化・悪化がみられる場合は、電話連絡での指示、受診、往診が早急に受けることができる。	全利用者は協力医療機関の訪問診療を受けている。専門的な他科受診は状態が安定している時に家族が同行し、必要に応じて職員が対応することもある。受診結果を利用者ごとに、往診や受診先を系統的に記録し、経過が分かりやすくなっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関の看護師を配置し、訪問看護記録をもとに毎週月曜日に看護師が訪問の際、健康管理や状態変化に応じた支援を行えるよう連携している。月2回、往診してもらっている。		

グループホームあさひの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、ご本人への支援方法に関する情報を医療機関医に提供し、家族とも情報交換しながら回復状況など速やかな支援に結びつけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応に係わる指針」を作成し、意思確認を行い、ご家族様には医療機関や事業所が対応し得る最大のケアについて説明している。	利用開始時に重度化対応指針を基に説明し、看取りが可能なことを伝えている。意向にそって昨年度は2名、現在は4名の看取り同意書を交わしている。職員はユニットごとに看取りを学び、経験を活かして対応し、振り返りも行い共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業内外における救命講習に参加、社内での勉強会、緊急時のマニュアルの作成により、その時の状況で職員が落ちついて対応できるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業内外の防災訓練を定期的に関催及び参加している。防災委員会を設置し、月1回、話し合いを行っている。災害時個別対応方法に状態などを記入し、他階職員や系列の事業所の職員なども直ぐに把握して協力対応できるように作成している。	今年度は夜間の火災を想定した避難訓練を札幌市防災協会の協力の下で実施し、3月に夜間の地震から発生した火災想定訓練を予定している。災害時の利用者ごとにケア別の対応を表にしているが、今後は入浴時の対応を加える予定である。	地震から火災発生を想定した訓練に近隣施設の協力など、住民の参加を得て行うことに期待したい。また職員の救急救命訓練の受講を計画的に実施できるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会やミーティングの際、職員の資質向上を図ると共に、日々の関わり方を再確認し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応を図っている。	新人研修やミーティングで、接遇や対応について学んでいる。申し送りは利用者から離れた場所で行い、個人記録類も適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の人格を尊重し、個々にわかりやすい言葉で、いくつかの選択肢を提案して、一人ひとりが自ら決定できる場面を作っている。会話が難しい方とは、日々の声掛けで信頼関係を築くよう努め、目線や顔つき等でご本人の意思表示を感じ取れる関係性を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「一日の流れ」はあるものの、一人ひとりの人間性に配慮しながら、できるだけ「私らしい生活」ができるよう、入居者様のペースに合わせてながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個別の生活習慣に合わせて、本人本意で身だしなみが整えられるよう支援している。ご自身で整容が難しい方には、声掛けしながら介助を行い、出来上がりを鏡等で確認してもらうなどの対応に努めている。		

グループホームあさひの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や新鮮なものを探り入れ、暖かい時期には前庭と一緒に食事をとり、楽しめる雰囲気を提供している。下膳、食器拭き、配膳準備等ができる入居者様には協力して頂いている。	献立は利用者の好みも取り入れ、事業所で作成している。利用者は野菜の下拵えを手伝ったり、どら焼きやおはぎ、ピザ作りなどの調理レクを楽しんでいる。職員も同じ食事を一緒に摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おやつや捕食も含めて利用者一人ひとりが、1日全体で、栄養や水分量がどの程度摂れているのか記録し、職員が常に意識しながら関わっている。不足気味の入居者様には医療機関と連携し、高栄養補助食品の提供を行い、体重減にならないよう努め、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い、力に応じて職員が見守りや介助を行っている。就寝前は義歯の洗浄を行っている。液体歯磨きも使用し、うがいを行ってもらっている。難しい方は口腔ティッシュやスポンジを使用し、介助で口腔内を清潔に保つようになっている。歯ブラシ、コップは週1回ペースで消毒し、消毒チェック表に記入している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の24時間記録にて排泄チェックを行い、パターンを把握し、声かけ、誘導を行い、自立に向けて支援を続けている。全介助の入居者様で座位が可能な方には、ポータブルトイレの使用を行っている。	個々に応じた声かけや誘導を行うことで、昼夜共にトイレで排泄している利用者が多い。ベッド上で排泄用品を交換する方も、可能な限り日中はポータブルトイレを使用している。適切な対応でおむつ使用が改善した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品、水分補給、補水など細目に取り入れている。ラジオ体操、家事活動など身体を適度に動かす機会を設けている。また、医療機関と連携を図りつつ、排便チェック表を作成し、便秘の予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人に対して基本的に週2回の入浴とし、時間の長短、湯温など個別に把握し、ゆっくり入浴できるように努めている。全介助で浴槽に入る事が難しい入居者様にはシャワー浴と足浴、かけ湯を行っている。全介助で入浴が難しい方は職員2名にて居室で全身清拭を行っている。また、入浴されながら方には、事前に声かけしたり、楽しく入浴できる雰囲気づくりを心がけている。	全日入浴が可能で、午前から午後の時間帯で一人週2回の入浴を支援している。入浴順や同性介助などの希望にも配慮している。利用者の身体状況に応じて二人で介助したり、浴槽内に台を置いて湯船で座れるように工夫している。入浴剤を使用し、職員と会話をしたり一緒に歌をうたいながら入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し、体操、行事などに参加を呼びかけ、日中に傾眠が強くなるように、また昼夜逆転にならないように配慮している。また、年齢や体調を考慮した休息の支援を行っている。		

グループホームあさひの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成や処方箋のコピーを整理し、職員が内容を把握できるようにしている。処方や容量が変更されたり、状態変化がみられるときは、いつもより詳細な記録をとり、医療機関と連携を図れるようにしている。また、服薬の際には職員個々が常に冷静になり、職員間でダブルチェックを声を掛けながら行い、誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、掃除機かけ、洗濯物干しやたたみ等の家事活動の適宜役割として行っている。塗り絵が好きな方には、季節感のある絵を選んで頂いて、色の選択が難しい方には一緒に考えながら楽しんで頂いている。歌う事が好きな方には昭和歌謡や童謡を職員と一緒に歌って楽しませている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、そしてご本人の気分や希望に応じて、季節感を感じてもらい、心身の活性化に繋げるようドライブ等に出かけたり、暖かい時期には近場を散歩に出ている。また、毎日のお茶会も暖かい時期で天気の良い日は中庭で行い、利用者同士の交流を図っている。ドライブが難しい利用者には、適温で晴れた時間に前庭で日光浴をして気分転換して頂いている。	天気の良い日は、車いすの方も一緒に近くの公園や教会で花を見ながら散歩をしたり、コンビニエンスストアに買い物に行くこともある。庭先でお茶を飲んだり、畑で野菜の生育状況を見ながらトマトなどを収穫している。今後はドライブツアーや個別の外出支援なども増やしたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て、小額のお金を持っている利用者もいる。家族よりお金を預かり、事業所が管理している入居者様でも、買い物の際には、自分で払って頂けるようにお金を渡すなどの工夫をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	デイルームの電話を利用して頂いたりして、家族や友人等に電話しやすい雰囲気作りを行っている。手紙やはがき等の代筆の支援も行ない、届いた手紙等は、ご本人に渡して隣で代読する支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	デイルームや廊下の飾りつけは、季節感を感じてもらえるよう定期的に装飾を変えている。テーブルを囲んで入居者様同士で話しあえる、ゆったりした環境作りにも工夫している。トイレはカーテンでプライバシーの配慮を行っている。	玄関には職員手作りの雪だるまや鬼など、季節感のある作品が飾られている。居間と食堂は3面の窓から明るい光が注いでおり、家庭的な調度品も多く温かな雰囲気を感じられる。居間や廊下の壁には、利用者と一緒に制作した季節の装飾や写真をユニットごとに工夫して飾り付けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル席があり、一人で過ごしたり、仲の良い入居者様同士で寛いでいる姿がある。暖かい時期の天気の良い日は、前庭でお茶会をセッティングして一緒に過ごされることもある。全介助の利用者様にも寝たきりにならないようデイルームで過ごす時間を設け、人が居ることで安心できる環境づくりに努めている。		

グループホームあさひの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	筆筒や椅子以外に、利用者の好みや使い慣れた物ものなどを配置したり、ご家族や飼っていた動物の写真なども飾るなど、ご本人の思いに配慮している。寒い季節には、職員が定期的に居室の室温調整を行い、心地がよく過ごせるような支援を行っている。	居室の広さは数種類あり、広い部屋には畳敷きのスペースも設けられている。使い慣れたタンスや椅子、好きな人形を持って来ている方もいる。職員からの誕生日カードなどを飾り、本人が落ち着いて過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレ、居室などの手摺りを設置したり、分かりやすいイラストや図等も使って、自立支援に努めています。また、居室のベッドには柵やサイドレールを設置できるようにし、起き上がりの補助具として使用してもらっている。夜間は人感の光センサーを使用し、居室内での転倒防止に努めています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501761		
法人名	朝日ベストライフ株式会社		
事業所名	グループホームあさひの家 2F		
所在地	札幌市白石区北郷1条3丁目1-54		
自己評価作成日	令和8年1月11日	評価結果市町村受理日	令和8年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様が不安や落ち着いた生活を送れる為に、毎月スタッフミーティングを行い職員全員が常に情報共有・ケアが行えるように支援をしています。 ・職員がより良いケア・支援の向上が出来るよう毎月の研修・勉強会に参加しスキルアップを行っています。 ・利用者様の健康維持・筋力の維持の為に出来る範囲での手足体操・口腔体操に力を入れております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action.kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouCd=0170501761-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和8年2月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議、ミーティングにおいて定期的に基本理念や実践目標を話し合い明確化している。職員がいつでも確認できるように名刺サイズの理念表とスタッフルームの壁に掛けている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りは有料と合同で開催し地域の人にも参加して頂いている。学生の活動(丁稚奉公)、あさひカフェなどにも来てもらい地域交流の場を設ける。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々から認知症の相談を受け、アドバイス、あるいは支援に繋げる体制を整えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族様の参加がなく書面にて伝えていきます。町内会長、地域包括支援センター職員等が参加し、2か月毎に開催。事業所の現状や日々の活動内容、意見交換の場となっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて市町村担当者と連絡を取り、事業所の状況について説明をしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を年に数回、月何回かの研修会、勉強会にどういった行為が身体拘束にあたるか、職員が理解したうえでケアに当たっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社内での虐待防止研修・勉強会に参加しどのような行為が虐待にあたるか理解したうえでケアに当たるよう努めている。		

グループホームあさひの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に関する会社外(オンライン研修)、会社内での勉強会・研修会に出来るだけ参加し、制度に関する理解を深めるようにしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書等は時間をとり、丁寧に説明。入退時には、書面および口頭にて利用者、家族様が納得いくまで時間をかけて説明し、同意を得られるようにしている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし話しやすい雰囲気作りに務めている。ご家族様の面会時には、口頭で伝え連絡ノートなど使い意見・要望など聞き入れるようにしている。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議、ミーティング、個人面談などで常に職員の勤務状況の把握に努めている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課や面談を行っている。時給従業員等、種類に応じて就業規則を細かく設けている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内のキャリアパスの作成、オンライン研修・社内での研修会の参加、資格取得へのバックアップなど、職員の資質向上の取り組みを行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社内外の研修・勉強会・オンライン研修への参加を通じ、他事業所の職員との交流出来る機会を設けている。			

グループホームあさひの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用相談があった時、必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向かい、職員が本人に受け入れられるような関係作りに務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの御家族の苦労やこれまでの経緯について聴くようにし、家族が納得する支援にも繋げていけるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な場合には可能な限り柔軟な対応を行っている。場合によっては、地域包括支援センターや他事業所のサービスに繋げる等対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることは自身で行って頂き、できない場合必要に応じて補佐している。サービス提供するだけではなく、人生の先輩であるという気持ちでケアに当たっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方の来訪時には日常の様子を伝え、連絡ノートも使い家族の希望と本人の希望とを調整できる関係を築くように努力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人がリモートや、ホームに遊びに来たりと今までの関係性が途切れないように働きかけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で楽しく過ごす時間や気の合うもの同士過ごせる場面をつくる等、関係性がうまくいくように職員が調整役となって支援している。		

グループホームあさひの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて経過をフォローし関係を大切にしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりや本人意向を尊重し、アセスメントルーツを活用しながら、ご本人の思いを現実出来よう職員がケアをするように努めている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族来訪された際など話をし、ライフストーリーやアセスメント表などりようし、聞いたことがない内容が有ったら日誌へ記入し職員共有し把握につとめている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のコミュニケーションや観察により状況の把握に努めている。入居者のペースに合わせて、最大限の配慮をおこなっている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、医療機関等と意見交換しながら介護計画を作成している。職員間では、毎月ミーティングを行い介護計画や日々のケアを見直しより良いケアをするようつとめている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の小さな変化や職員の気付きは個別のケア記録に記載し、見逃さないように職員間での情報共有に努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かして利用者にとって負担となる受診や入院の回避、医療処置を受けながらの生活の継続など、ご本人・ご家族の状況や要望を軸に臨機応変に対応している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けていけるように、警察や民生委員、地区町内会長、区担当職員と意見を交換する機会を設けている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望するかかりつけの医となっている。状態変化・悪化がみられる場合は、電話連絡での指示、受診、往診が早急に受けることができる。			

グループホームあさひの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関の看護師を配置し、毎週月曜日ナース往診時に訪問看護記録をもとに健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、書面・電話等、円満に情報交換できるような体制を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応に係わる指針」を作成し、意思確認を行い、事業所が対応し得る最大のケアについて説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルの作成によって、色々な状況に応じた対応が出来るよう全職員が落ちついて対応できるよう日々励んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に数回の避難訓練に参加、毎月の防災委員会にてどうしたら安心安全かを常にかんがえている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会・研修会やミーティングの際、職員の資質向上を図ると共に、日々の関わり方を点検し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応を図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の人格を尊重し、個々がわかりやすい言葉でいくつかの選択肢を提案して、一人ひとりが自ら決定できる場面をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間以外は本人の好きなように過ごして頂いています。職員のタイムテーブルでなく、入居者様のペースに合わせて最大限の配慮をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様が自ら洋服を選び、身だしなみも本人の使い慣れている物や乳液・化粧水など使ったりと本人主体で行っている。		

グループホームあさひの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や新鮮なものを採り入れ、利用者の好みや苦手な物を踏まえうでメニューを工夫している。食器洗い等、利用者の協力を得ている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりが、1日全体で、栄養や水分量がどれ程度摂れているのか記録し、取れなさすぎに配慮している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き・うがいの声かけを行い、口腔内の清潔を保つようにしている。応じて職員が見守ったり、介助を行っている。就寝前は義歯の洗浄を行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	3~4時間で声かけ誘導やパット交換を行い、自立に向けてオムツに頼る事なく、トイレで排泄出来るようケアの工夫をしている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を摂り入れている。水分量も視野に入れて、軽い運動や活動など身体を適度に動かす機会を設けている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人週2回の入浴している。利用者には事前にお誘い掛けの工夫をし、入浴拒否はほとんどない。毎日入浴出来るように工夫している。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間逆転にならない程度の昼寝をして頂くこともある。利用者に合わせて気持ち良く寝て頂くよう工夫している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報説明書、居宅医療管理指導報告書を事務所へ置き職員が内容を把握できるようにしている。服薬ファイル・マニュアル・ケースを使い職員が内容を把握出来るようにしている。服用時、声掛け・ダブルチェックをし確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション・塗り絵等の参加を促すなど、楽しく過ごせる時間を設けるよう工夫している。食器拭きや洗濯物たたみなども皆で楽しみながら行っている。			

グループホームあさひの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	あさひカフェ・畑づくり、収穫など積極的に出て頂くようにしている。施設内に閉じこもらないとうにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預かり、施設の事務所金庫にて管理している。必要な場合は利用者に使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している利用者が1名、その他の利用者が連絡する場合、固定電話を利用して頂いている。リモートなども活用し連絡が取れるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	デイルームや廊下の飾りつけは、利用者と一緒に考えて制作した作品など、季節感をもたせるために定期的にかえている。利用者が楽しく談話出来るような工夫をし居心地の良く過ごせるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者がテーブルを取り囲んで、お茶会や雑談が出来るように工夫をし楽しんでいきます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス・椅子(ソファ)・布団など、使い慣れた物もの、利用者の昔の写真・思い出の品などを配置して、ご本人の思いに配慮している。利用者が快適に過ごしてもらえるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレ、居室などの手摺りを設置したり、分かり易い絵や図等も使って安全に過ごせるような自立支援しています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501761		
法人名	朝日ベストライフ株式会社		
事業所名	グループホームあさひの家 3F		
所在地	札幌市白石区北郷1条3丁目1-54		
自己評価作成日	令和8年1月15日	評価結果市町村受理日	令和8年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特定の職員に業務が多忙にならないよう担当業務をフロアにて分散し働きやすい環境を目指しています。
・季節感じられる装飾を季節ごとに変更し利用者に味わって頂いています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action.kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouCd=0170501761-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和8年2月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議、ミーティングにおいて定期的に基本理念や実践目標を話し合い明確化している。 職員がいつでも確認できるように壁に掛けている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の夏まつり行事に職員参加している。 中学生が職業体験で訪れる機会をつくっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェなど支援に繋げる体制を整えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族、町内会長、地域包括支援センター職員等が参加し、2か月毎に開催。 事業所の現状や日々の活動内容・自己評価・外部評価について報告している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者との業務連絡、毎月の調査票の提供で実情を報告している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待防止法に基づいて委員会を定期的に開催し拘束に関する委員会参加、勉強会をホーム内で行い、職員の共有意識を図り身体拘束を一切しないケアをしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年2回の研修会を開催、虐待防止委員会を実施している。		

グループホームあさひの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内での勉強会で理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書等は時間をとり、丁寧に説明。特に利用料金や起こりうるリスク、個人情報保護、医療連携体制の実施などについて詳しく説明し、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をしている。家族会等で常に問いかける等、話しやすい雰囲気作りに努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	情報交換やカンファレンスを行い、スタッフの考えや意見を反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課や面談を行っている。時給従業員等、種類に応じて就業規則を細かく設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修には多くの職員が受講できるようにし、研修報告は全体会議などのミーティングで行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や区の連絡会等での研修会参加時に交流する機会がある事業所外の人材の意見や経験をケアに生かしている。		

グループホームあさひの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用相談があった時、必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向かい、職員が本人に受け入れられるような関係作りに務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの御家族の苦労やこれまでの経緯について聴くようにし家族の支援にも繋げていけるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な場合には可能な限り柔軟な対応を行っている。場合によっては、地域包括支援センターや他事業所のサービスに繋げる等対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることは自身で行って頂き、できない場合必要に応じて補佐している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方の来訪時には日常の様子を伝え、家族の希望と本人の希望とを調整できる関係を築くように努力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者へ友人から電話があること、また要望があれば利用者から友人、家族への電話など行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で楽しく過ごす時間や気の合うもの同士過ごせる場面をつくる等、関係性がうまくいくように職員が調整役となって支援している。		

グループホームあさひの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて経過をフォローし関係を大切にしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中での把握に努めている。言葉や表情などからも本意を読み取るようにしている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族来訪された際など話をし、聞いたことがない内容があったら日誌へ記入し職員共有し把握につとめている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のコミュニケーションや観察により状況の把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、医療機関等と意見交換しながら介護計画を作成している。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態変化や職員の気づきは、個別のケア記録に記載し、職員間での情報共有に努めている。個別記録をもとに介護計画の見直し評価を実施している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かして利用者にとって負担となる受診や入院の回避、医療処置を受けながらの生活の継続など、ご本人・ご家族の状況や要望を軸に臨機応変に対応している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けていけるように、警察や民生委員、地区町内会長、区担当職員と意見を交換する機会を設けている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望するかかりつけの医となっている。状態変化・悪化がみられる場合は、電話連絡での指示、受診、往診が早急に受けられることができる。			

グループホームあさひの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関の看護師を配置し、訪問看護記録をもとに健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、ご本人への支援方法に関する情報を医療機関医に提供し、職員は頻繁に見舞うようにしている。家族とも情報交換しながら回復状況など速やかな退院支援に結びつけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応に係わる指針」を作成し、意思確認を行い、事業所が対応し得る最大のケアについて説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成によって、全職員が落ちついて対応できるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCP(災害)に基づく研修や訓練を定期的開催及び参加している。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会やミーティングの際、職員の資質向上を図ると共に、日々の関わり方を点検し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応を図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の人格を尊重し、個々がわかりやすい言葉でいくつかの選択肢を提案して、一人ひとりが自ら決定できる場面をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間以外は本人の好きなように過ごして頂いています。深夜にTVを見ていたり、編み物をされたりしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前や起床時には本人より服を選んでもらい、身だしなみも乳液・化粧水など使ったりと本人主体で行っている。		

グループホームあさひの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や新鮮なものを採り入れ、時には前庭と一緒に食事をとり、楽しめる雰囲気を提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりが、1日全体で、栄養や水分量がどれ程度摂れているのか記録し、不足なら栄養補助飲料を提供し促すなど職員が常に意識しながら関わっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い、力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。就寝前は義歯の洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	3~4時間で声かけ誘導やパット交換を行い、自立に向けて便秘の方には下剤調整を行い支援を続けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を摂り入れている。水分量も視野に入れて、家事活動など身体を適度に動かす機会を設けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週二回を基本にし、午前・午後など決めずに声掛けをしている。入りたがらない入居者へは翌日など対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し、体操や散歩、行事などに参加を呼びかけ、昼夜逆転にならないよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報説明書、居宅医療管理指導報告書を事務所へ置き職員が内容を把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌が好きな方が多く、歌番組などを録画し多く視聴している。食器拭きや洗濯物たたみなども皆で楽しみながら行っている。		

グループホームあさひの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人だけの希望ではないがドライブとして牧場へ数名で出かけたりにしている。また家族同伴で外出もしている利用者もいる。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て、小額のお金を持っている利用者もいる。家族よりお金を預かり、事業所が管理している利用者でも、買い物の際には、自分で払って頂けるようにお金を渡す工夫をしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している利用者が数名、その他の利用者が連絡する場合、固定電話を利用して頂いている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	デイルームや廊下の飾りつけは、利用者と一緒に考えて、季節感をもたせるために定期的にかえている。テーブルを囲んで入居者どうして話あったり出来る様に配置も工夫している。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	車椅子の方も一緒にテーブルを取り囲んで、お茶会や雑談を楽しんでいます。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス・椅子・ベット・布団など、使い慣れた物もの、利用者の昔の写真などを配置して、ご本人の思いに配慮している。夏・扇風機、冬・加湿器などを置き、快適に過ごしてもらえるようにしている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレ、居室などの手摺りを設置したり、分かり易い絵や図等も使って、自立支援しています。			